



授業づくり

思考の場を充実し 深い学びを実現

現在、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められています。その中でも、「深い学び」を実現するための条件として、児童生徒が「比較する」「関連付ける」「推論する」「多面的に思考する」など、思考したことを十分発揮できる場があることや、試行錯誤して自分なりの解決方法を見つける場があることなどが大切になります。

本号では、中学校社会科地理的分野において、「東北地方のまつり」をテーマに、複数の資料を比較したり、それを関連付けて意味を見いだしたり、「まつり」を多面的に考えたりするなど、思考の場を充実し、深い学びを目指した授業実践を紹介します。

	「深い学び」に向けて	主な学習活動と発問	提示資料	生徒の様子・意見
導入(グループ)	複数の資料を比較する場	<p>1. 東北地方の伝統的な「まつり」の願いを探る。</p> <p>Q 東北地方の伝統的な「まつり」に共通する願いは何だろうか？</p>	<p>A: 秋田竿燈祭りHP B: 仙台七夕祭りHP C: 山形花笠祭りHP D: 青森ねぶた祭りHP</p>	<p>どの「まつり」も長い歴史があるんだね。 本来の七夕は旧暦の7月7日。稲の開花時期なんだね。 花笠の踊りは田植えの姿が基になっているんだって。 共通点は農業だね。どの「まつり」も米作りと関係しているとと言えるよね。</p>
展開(グループ)	関連付けて意味を見いだす場	<p>2. 東北地方の伝統的な「まつり」と農業との関連を考察する。</p> <p>Q なぜ、東北地方の伝統的な「まつり」には、共通して農業に関連する願いが込められているのだろうか？</p>	<p>A: 米の収穫量のグラフ B: 第一次産業に携わる人の割合 C: 冷害時の作況指数地図 D: 都道府県別朝食にごはんを食べるランキング</p>	<p>A・Dの資料から東北地方は米がよくとれ、よく食べる地域なのがわかる。 Bの資料を見ると、第一次産業(農業)に携わる人の割合が高い。 Cの資料から、冷害は作物に大きな影響を与えることがわかるね。 農業は自然が相手だから、神様に祈ったり、感謝したりするための「まつり」が重要ってことだ。</p>
	多面的に思考する場	<p>3. 東北地方の今の「まつり」の願いを考察する。</p> <p>Q 東北地方の今の「まつり」も、同じような願いで行われているのだろうか？</p>	<p>A: 東北六魂祭実行委員の方の話 B: 東北六魂祭における経済効果の記事 C: 主な「まつり」の日程表 D: 観光客の推移のグラフ</p>	<p>今の「まつり」は、農業のことだけではないね。 東北六魂祭は経済効果が大きいから、続けたいだろうね。 東北地方の「まつり」は夏休みに集中しているから、人を集めてツアーができそう。 今の「まつり」は、観光業としての重要な役割もある。東日本大震災からの復興という面も強い。今の「まつり」は時代や地域の願いが表れている。</p>
まとめ(個人)	今までの学習活動を関連させる場	<p>4. 「まつり」への願いから東北地方の地域的特色をまとめる。</p> <p>Q ここまで考えてきたことをまとめると、「つまり、東北地方はどんな地域だ」と言えるだろうか？</p>		<p>東北地方は自然環境が厳しい中、昔から農業を中心とした第一次産業が行われてきた。しかし、近年は観光業も発展している。また、東日本大震災からの復興という面もあり、人々の願いをもとにまとまっている地域であると言える。</p>